

目的 現代衣生活成立の経緯とその要因をあきらかにする研究の一環として、本発表では主に流行動態に視点を置き、1970年代の状況について論及する。この視点ですでに報告した1960年代に関する成果と比較させながら、次の70年代において定着し、現在にも受け継がれている流行と着装の諸形態をあきらかにする。

方法 各種新聞・雑誌等の服飾に関する記事から、その時々話題を集めた服種を抽出したのち、それらの着装状況を通じて1970年代の衣生活の特徴を考察する。

結果 1960年代のミニスカートに代表される若者主導型の流行動向はこの時期にも引き続き見られた。それは今日、若者に定着しているジーンズが1970年代初頭に大流行し、壮年層にまで波及したことでわかる。生産・販売者はそれ以前の流行を主導していた立場を大きく後退させ、購入者の動向に追従する形となった。個人が自分の価値観で各種のものを選択し、それをコーディネートするいわゆる「組み合わせファッション」が見られるようになったのは、この時期の特徴といえよう。そこで人々は衣服のみにとどまらず、靴・バッグ・アクセサリ等の付属品にまで注目するようになった。またそれまで女性の晴れ着と見做されなかったスラックス（パンタロン）を式典等で着用したり、高級品と捉えられていた毛皮コートを日常着のジーンズと組み合わせるなどのように、従来の服種別の着用形態および認識のパターンが著しく崩壊した。これらの兆候は、すでに1960年代に見出すことができるが、年齢層を越えて広く定着したのは、1970年代といえる。